

# INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL

47

2017

## 酉年 附属病院 飛翔の一年に

DOCTOR'S VOICE 01 女性の患者さんに喜ばれ、女性医師が最も必要とされる職場です

DOCTOR'S VOICE 02 将来の県内医療を担う、若手医療従事者の育成に努める

DOCTOR'S VOICE 03 医療面から街づくりに貢献する当院との連携強化を



# 仕事始め式

— 平成29年初春 —

## 女性医師の活躍

## 女性の患者さんに喜ばれ、女性医師が最も必要とされる職場です

産婦人科 講師 松原裕子  
 助教 宇佐美知香  
 助教 内倉友香

## ●産婦人科で働く女性医師の人数を教えてください。

内倉／産婦人科には13人の医師が存在し、そのうち7人が女性医師です。7人の中には結婚、出産後も産婦人科医として仕事を継続している医師もいます。産婦人科の患者さんは女性のみで、女性医師による診察を希望されることが多くあります。女性医師限定と指定されている検診もあり、女性医師はなくてはならない存在です。

宇佐美／産婦人科は、産婦人科専門医を取ったあとに、周産期・不妊生殖・腫瘍と各々目指す専門に分かれていきます。専門を選ぶときに、自分のライフスタイルを考えた選択をできるのも、女性にとっては魅力だと思います。

松原／胎児期から思春期、成熟期、出産、老年期まで全てサポートできる科です。女性ならではの視点で、女性でなければ理解しがたい感情も共有でき、女性であることが生かせる唯一の科であると思います。

## ●なぜ、この職場を選んだのですか？

宇佐美／今までの経験や自分で学んだ知識を、次の世代に繋げていきたいと考えたときがありました。それをどこですべきか、どこでできるかを考え、両方の条件が一致したのが母校である愛媛大学医学部の附属病院。今では病棟医長を任せられ、次の世代を教育する立場になりました。若手をきちんと育てていきたいと考えています。

松原／産婦人科は周産期 婦人科腫瘍 生殖内分泌 女性ヘルスケアの領域がありますが、大学ではそれらをバランスよくかつどの領域でも最先端の医療が学べるのが魅力であると思います。

内倉／大学病院ですので、複雑な症例や合併症、周産期でも赤



ちゃんとお母さんが相手となります。常に向上心を持ち、勉強し、経験を積むことが求められており、やりがいがあることが大きな理由ではないでしょうか。

## ●女性医師が活躍できる職場に必要なことは何でしょうか？

松原／第一はマンパワー。メンバーには出産経験がある医師、育児中の医師など、キャリアも年齢も異なりますが、互いにわかりあえるチームが必要だと思います。

内倉／次は個人のモチベーションです。個々のモチベーションが高く維持できれば、チーム力が増し、それが個人に還元され、自分の時間もでき、いいサイクルになると思います。

宇佐美／産婦人科は、女性医師の働き方を考え、新しい仕組みを取り入れ、働きやすい魅力的な職場を作っていこうという状況です。私たちも、そのベクトルに向かって協力していきたいと思っています。



## PROFILE

まつばらゆうこ◎松山市出身。1998年愛媛大学医学部卒。南宇和病院、松山市民病院を経て、2010年から現職。産婦人科専門医、臨床遺伝専門医、周産期(母体胎児)専門医、婦人科腫瘍専門医の資格を有する。美味しいお肉が好き。



## PROFILE

うさみともか◎三重県出身。2004年愛媛大学医学部卒業。倉敷中央病院、がん研究会有明病院婦人科を経て、2015年より現職。産婦人科専門医、婦人科腫瘍専門医、がん治療認定医、細胞診専門医の資格を有する。



## PROFILE

うちくらゆか◎2005年愛媛大学医学部卒業。愛媛県立中央病院を経て、2016年から現職。産婦人科専門医、周産期専門医(母体・胎児)の資格を有する。

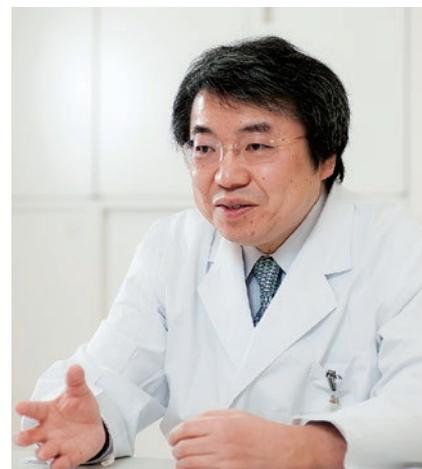
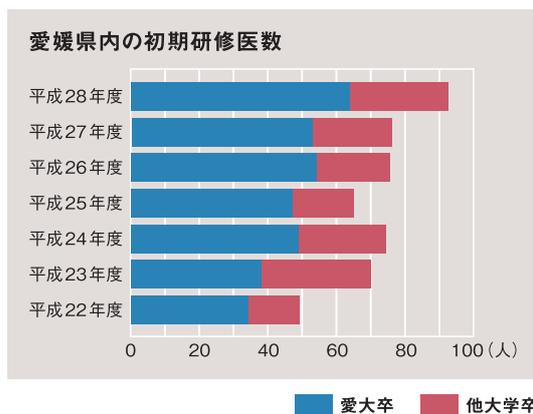
愛媛県内の医師の育成について

## 将来の県内医療を担う、若手医療従事者の育成に努める

総合臨床研修センター長・地域医療支援センター長 高田清式

「チーム愛媛」を合い言葉に、センターでは県内各病院と連携し、全国屈指の充実した施設とサポート体制で臨床研修を行っています。その結果、2017年度は過去2番目に多い86人が県内で初期研修を開始します。これは本学医学部卒業生だけでなく、県外で学んだ愛媛県出身の学生を、県内に円滑に戻すための取組みを進めた結果だと考えています。また、病院や組織の枠を越えて「愛媛研修医OSCE（オスキー）」を実施しています。臨床能力の統一的評価と、研修で習得すべき事柄のフィードバックを目的にし

たもので、研修医対象のOSCEは、先駆的な取組みとして医学教育分野で高い評価を得ています。将来の県内医療の充実のために、これらに満足する事なくこれからも研修内容と指導医の質の向上を目指します。



## PROFILE

たかだきよりのり◎大阪府出身、愛媛大学医学部卒業。1981年から愛媛大学医学部で研修医。専門分野は消化器内科学、感染症をはじめとした総合内科医。松山市エイズ対策推進協議会会長、愛媛県感染対策協議会会長。2005年、総合臨床研修センター専任助教授として就任、2007年同センター専任教授。趣味は空手、史跡巡り、スポーツ観戦。

## FROM VIP DOCTOR

愛媛大学医学部附属病院に期待すること『VIP DOCTORに聞く』

## 医療面から街づくりに貢献する当院との連携強化を

愛媛県立今治病院院長 藤田 学

愛媛大学（附属病院）に期待することは3つあります。まずは医師派遣の継続です。地域医療支援センターの取組み等により研修医の県内定着率はよくなっています。今後、更なる定着率の向上のために、研修医にとっての魅力的な取組みを期待します。次に専門医制度への対応です。現在予定されている専門医制度は、必ずしも地方の医療事情に適した制度とは言い難いものと感じております。地域医療に専門医制度が合っているかを考え、地域の特性と現状に合った専門医制度の運用を期待したいです。最後は更なる連携強化です。我々は地域の中核病院として良質で標準的な医療を安定して供給することを第一とし、高度医療や先進医療については大いに附属病院を頼りにしたいと考えております。そのためにも附属病院の協力は不可欠です。そして、当院は全診療科が愛媛大学から医師が派遣されております。愛媛大学はまさしく我々の「実家」です。今治地域の永続的な発展のために、継続的にサポートしてほしいと熱望します。



## PROFILE

ふじたまなぶ◎1982年愛媛大学医学部卒業後、1992年から今治病院へ赴任。2010年から現職。専門は脳神経外科一般・血管内治療。救急の脳梗塞患者を救うルート「t-PAホットライン」を、7年前から地元の2病院と開設し稼働させている。趣味は囲碁、ゴルフ。

# 愛媛大学医学部附属病院 トピックス

お気軽にご相談ください

## 大規模災害訓練



平成28年12月18日(日)、大規模災害の発生を想定した大規模災害訓練を実施しました。訓練は、震度6強の地震発生を想定し、消火訓練や、傷病者に対し、1人でも多くの方に最善の治療を行うため、医師によるトリアージ訓練が行われました。トリアージでは、医師や看護師に加え事務職員も連携しながら、怪我の重症度・緊急度によってトリアージタグをつけ、実践的な訓練を行いました。当院は、今後も災害拠点病院として更なる機能強化を図ります。

総務課 ☎089-960-5125

## 地域医療再生セミナーを開催



平成28年10月26日(水)、愛媛県の地域医療に従事する医師の確保と定着を図るために、関係者の理解を深めることを目的とした「第6回地域医療再生セミナー」を開催しました。今回、愛媛県及び各市町の行政機関、医師会及び関連病院から約130人の参加があり、地域医療関係講座各教授の取組みや現況の説明に対し、活発な意見交換を行いました。当院では、今後も愛媛県全体の医療の充実のための活動を実施していきます。

地域医療支援センター ☎089-960-5990

## クリスマスコンサートを開催



平成28年12月15日(水)、21日(水)にクリスマスコンサートを開催しました。15日は、愛媛県警察音楽隊による歯切れの良い演奏に勇気づけられ、21日は、「がん患者・家族サロンあいほっと」主催で開催し、荒川和子さんの優しい歌声が病院内に響き渡りました。患者さんやご家族にとって癒やしのひとときになりました。

医療サービス課  
☎089-960-5099

## 連携病院の皆様

### 平成29年3月4日(土) 松山全日空ホテルにて 連携病院長会議開催



第29回連携病院長会議を上記日程にて開催します。詳細につきましては、当院ホームページをご覧ください。

## ヘルスアカデミーを50回開催



当院が主催し、地域の皆様に身近な疾患の最新治療法や予防法をお伝えする「ヘルスアカデミー」が、平成28年10月2日(日)に50回の節目を迎えました。記念すべき50回目は、「がんの免疫療法」を取り上げ、最新治療法を解説しました。会場にはたくさんの参加者があり、メモを取るなど関心の高さが伺えました。ヘルスアカデミーは今後も、地域の皆さんが気になるテーマを取り上げ、お届けして参ります。

医療サービス課 ☎089-960-5099

## 日馬富士関が来院



平成28年10月22日(土)、第70代横綱日馬富士関が、病気と闘う子どもたちを励ますために来院されました。今回の訪問は、当院が長期にわたって取組んできた「Heart Saving Project」というモンゴルの子どもたちへの医療支援に関するご縁で実現したものです。日馬富士関は、子どもたちと相撲を取ったり、手形を押ししたりしたあと病室を回りました。日馬富士関の優しさに触れた子どもたちからは、満開の笑顔が溢れていました。

医療サービス課 ☎089-960-5099

## 編集後記

新年明けましておめでとうございます。昨年開院40周年を迎えた当院は、今年、開院50周年に向けて大きく羽ばたく飛躍の1年にしたいと考えています。本年も当院をよろしく願い致します。

さて、本号では産婦人科の女性医師や愛媛県の将来を担う医師の育成についての紹介、また、当院に期待することを県立今治病院長にお伺いしております。是非ご一読ください。

広報委員会委員長 高田清式

◎表紙  
仕事始め式にて